

## スターチスオリジナル品種育成への取り組み

### 1. はじめに

スターチスは、種苗費が大きいことが経営上の課題の一つになっています。当センターでは、栽培許諾料の低減と自家育苗により種苗費を下げることを目的にスターチスの品種育成に取り組んできました。県では育成したオリジナル品種を‘紀州ファインシリーズ’として展開しており、紫系3品種、ブルー系2品種、ピンク系、黄色、白色それぞれ1品種が県内で生産されています。ここでは、現在の品種育成の取り組み状況をご紹介します。

### 2. 品種育成の状況

重油価格の高騰以来、生産現場では冬季に無加温や1～3℃程度の加温とする低夜温管理が主流となっています。低夜温管理では、切り花本数の減少や低温障害が問題となります。このため、低夜温管理下でも収量性の高い品種の育成を目指しています。また、‘紀州ファインシリーズ’は、主要な花色が出揃いましたが、既存品種の欠点を克服した品種や色あいの違った品種などさらなるラインナップの充実を図っていきます。

2013～2015年度にオリジナル品種・系統間で交配して得られた実生個体から抽苔が早く、花色や形質が優れた個体を選抜し、これらを組織培養により増殖、クーラー育苗した苗を2016年9月7日に定植しました。2013年度交配系統は2年間、2014年度交配系統は1年間栽培試験を行い、現在紫系2、ブルー系3、ピンク系7系統を選抜しています（表1）。2015年度交配の9系統（紫系3系統、ブルー系6系統）は、今年度始めて培養苗としての特性を調査します。これらを1℃加温下で栽培し3月までの切り花本数、切り花品質、低温障害の有無等の特性を調査し、品種登録に向けた有望系統を選抜していく予定です。

表1 選抜系統の切り花品質と収量

交配年度	花色	系統名	切り花長 (cm)	茎径 (mm)	分枝数 (本)	花房数 (個)	切り花本数 (本/株)	2L率 <sup>2</sup> (%)
2013年度	ブルー系	13B11	77.4	5.2	6.6	13.6	18.6	81.9
		13P5	78.3	5.4	4.8	7.7	15.8	79.4
	ピンク系	13P26	65.1	4.6	4.3	7.0	22.5	40.0
		13P56	84.3	6.6	6.6	10.8	13.1	86.7
		13R17	81.2	4.4	4.4	6.3	20.4	83.4
2014年度	紫系	14V1	81.7	5.7	5.1	7.5	15.0	80.8
		14V12	88.9	5.8	5.5	8.8	15.1	91.7
	ブルー系	14B1	84.6	5.9	5.9	10.4	12.1	87.6
		14B2	84.8	5.5	6.4	11.8	13.9	90.1
	ピンク系	14P6	74.6	5.5	5.8	10.0	11.3	71.1
		14P7	77.7	5.1	5.1	7.6	19.0	81.6
		14P11	77.6	6.0	4.3	7.5	15.8	76.2

注)2015年9月7日定植、10月29日～2016年3月18日まで調査

<sup>2</sup> 切り花総本数に占める切り花長70cm以上かつ花房数5個以上の切り花本数の割合

### 3. おわりに

現在進行中の交配育種その他、開花に低温を必要としない形質や萎凋細菌病に強い形質を有する個体を効率的に選抜する手法の開発にも取り組んでいます。また、花粉が出ないなど交配育種では得られにくい形質をイオンビーム照射により突然変異を誘発することで作出する試みも行っています。有用な形質を持つ育種素材を得ることで、より優れた品種の育成を進めていきたいと考えています。

(育種部 宮前 治加)